

ぶら 探訪

その拾五 「福山城の西側を歩く」



「福山城誌」より

平成25(2013)年10月3日発行

もくじ

- 福山城復元図……………1
- 水野時代初期の城下西側……………2
- 水野時代の城下西側……………3
- 阿部時代の城下西側……………4
- 近代の城下西側……………5
- 昭和時代の航空写真……………6
- 現在の城下西側の地図……………7
- 能満寺と杉原信平・為平……………8
- 弘道館……………9
- 福山藩と松平三河守綱国……………10
- 龍淵寺と酒井山城守重澄……………11

福山城復元図



水野時代初期の城下西側



「正保城絵図」国立公文書館蔵



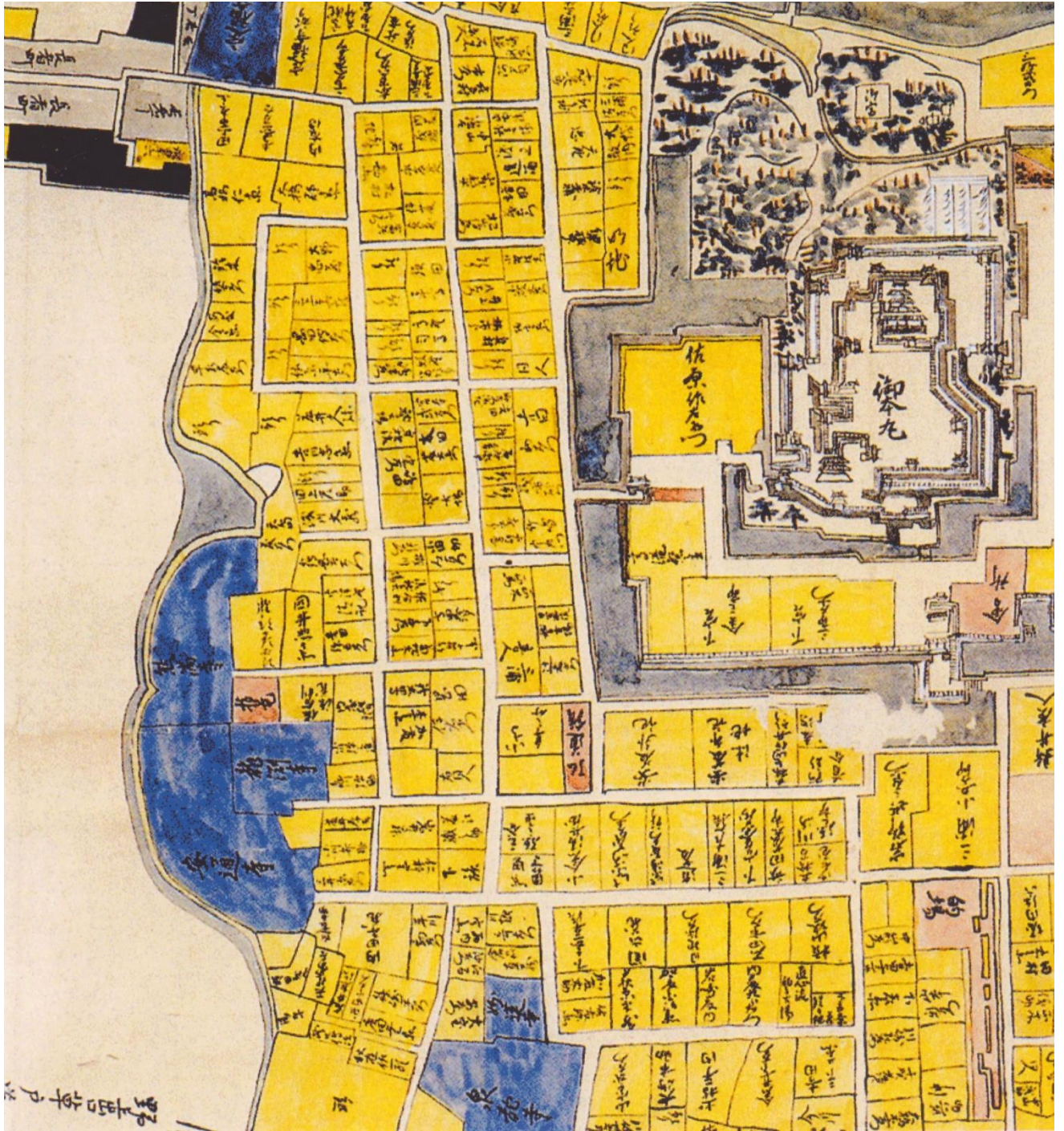
「備後福山之城図」国立国会図書館蔵

■参考 ■承天寺
 明暦元年に中尾又四郎下屋敷に建立される。寛文八年に松永に移転する。

水野時代の城下西側

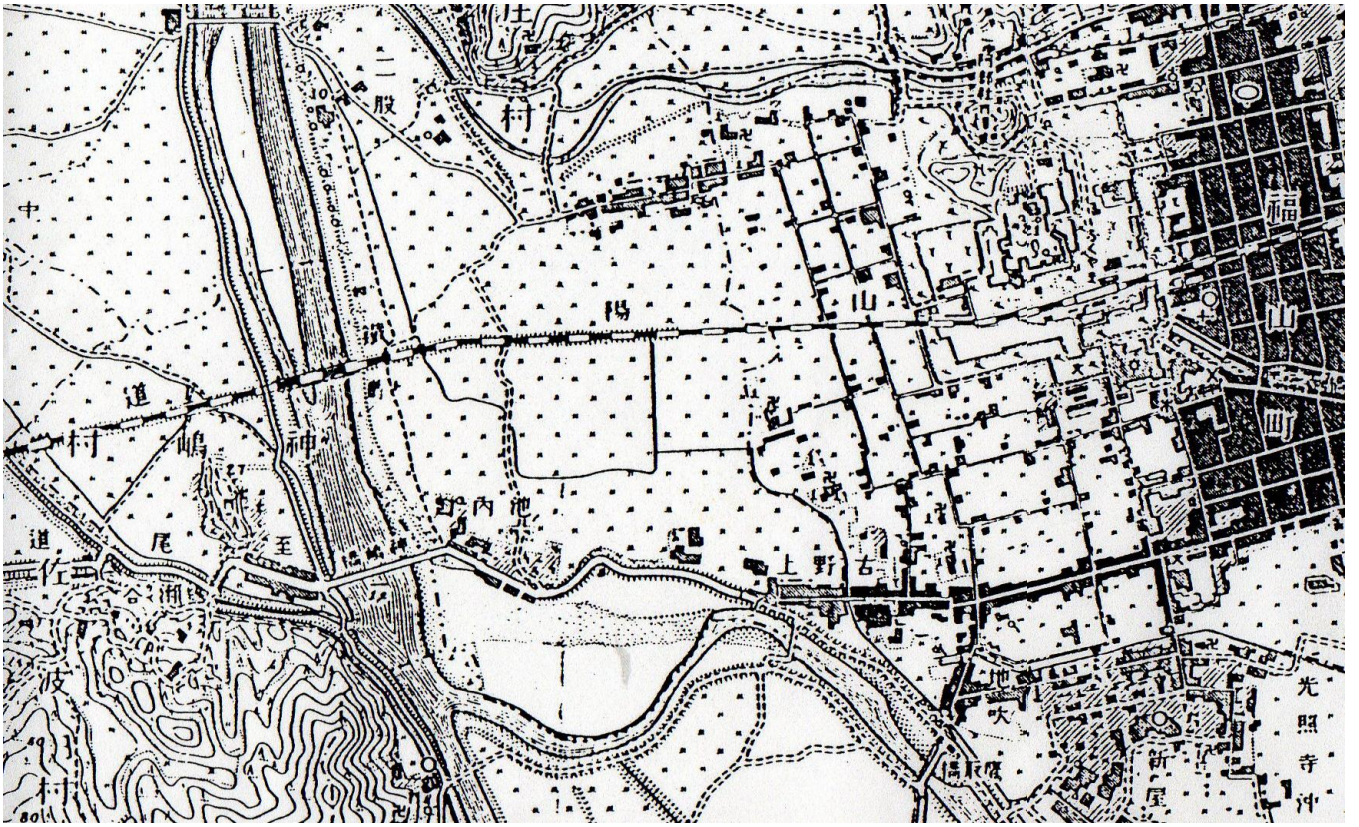


阿部時代の城下西側

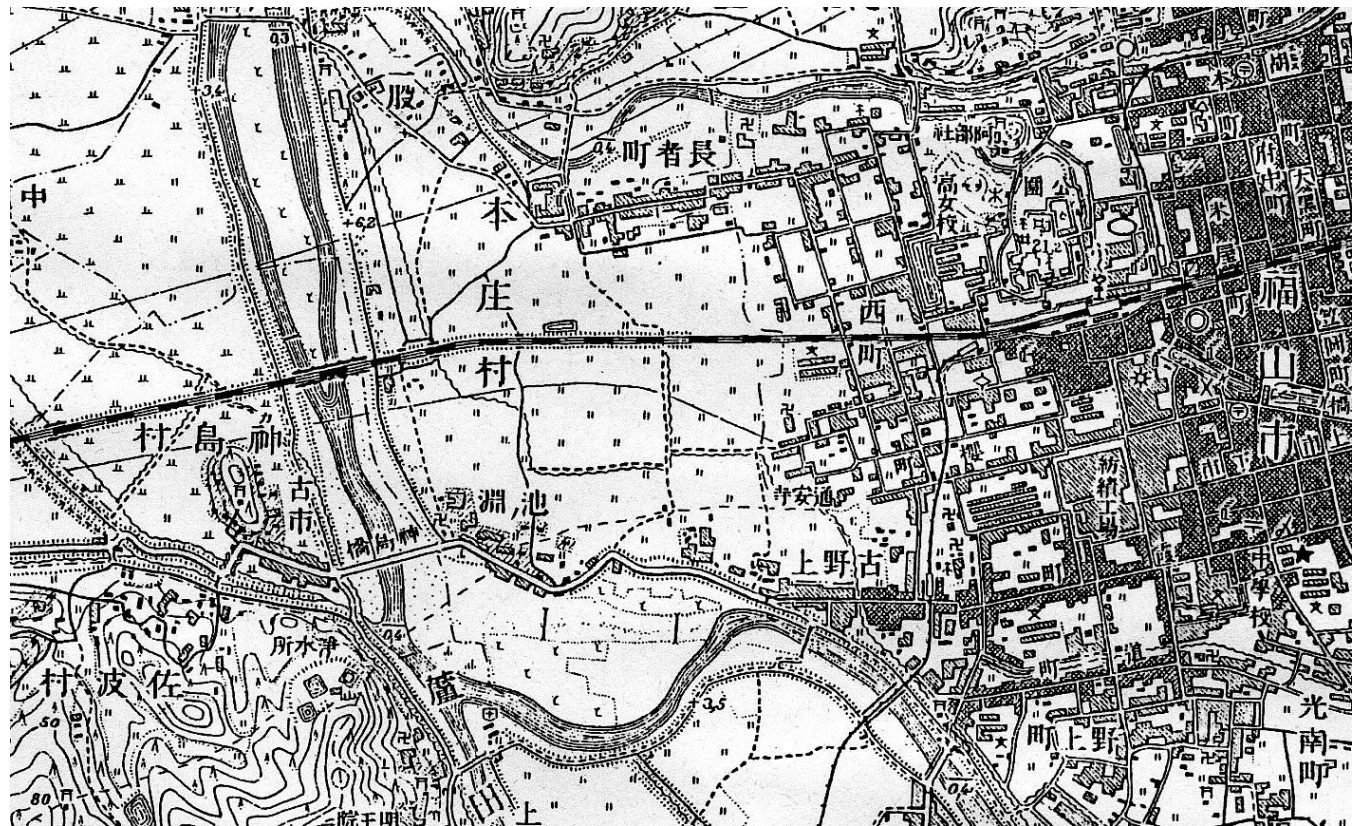


広島県立歴史博物館蔵

近代の城下西側



明治30年(1897年)



大正10年(1921年)

昭和時代の航空写真



昭和22年(1947年) 国土地理院蔵



昭和36年(1961年) 国土地理院蔵



【資料二〇】 木梨先祖由来書

一爰に建武年中備後国の住人杉原又太郎、平信平、同舎弟又次郎為平と云者有其先、桓武天皇より六代の後胤、鎮守府將軍從四位下陸奥守平朝臣貞盛十四世の末葉たり。孤となり歳久しく沈淪して流浪の身に有ける故、備後深津郡野上村能満寺の住侶と、伯父甥の親に依て彼寺に養育致され、筆硯の業を學て居たりけるが、未だ若輩なりと云えども、其心飽まて不敵にして、力郡道の人に勝れたり、されば建武三年の春、尊氏將軍西国御下向之由伝聞き、兄弟打寄密談しけるは、我等弓矢の家に生れながら、幾久く埋木の遂に朽なんは、口惜さよ、いざや尊氏卿に屬し奉て、一戦の功をはけまし、身の安否を究むへしとて、兄弟心を一にして住侶に暇を乞ければ、住侶も彼等か志のほとを感悦して、我も願守也、早く用意仕れとて、取拵へて、出立せられける。俄の事にて白布を手綱に懸けかゆとなり、是よりして木梨家出陣の吉例に、白手綱を用ふなり、

一則兄弟將軍御下向の路次にお向、道の傍に踰躑し

第八章 近 世（戦国期）

て、しかくの由言上しければ、御上覽有て、未若輩の者共の、志の程の優しさよと御感被成、やがて召供せられける、斯し（ママ）所に、同二月筑前の国多々良浜の戦場において、兄又太郎一日の戦に、敵七人組伏頸討取ける故、將軍御感のあまり、忝もあさきの母衣に、日本一大豪の者と云大文字を御自筆を染られ、下し給けるなり、弟又次郎も相劣らず軍忠を励しけると也、尊氏卿勝利を得給ふ、御上洛の時、備後国御調郡木梨庄十三ヶ村を勲功の賞として、信平為平兄弟に宛行われけるなり、信平拝領の御下文、未能所見（ママ）に為平に給りし御下文に云く、

尊氏在判

下 梶原又次郎為平

可令早領知備後国木梨庄半分地頭職事

右人為勲功賞所宛行也、者守先例可致沙汰之状如件

建武三年三月四日

備後国木無庄地頭職事、任御下文可致沙汰付、干梶原又次郎為平之状依仰執達如件

弘道館

阿部氏四代藩主阿部正倫(まさとも)により、天明6年(1786年)に設置される。明治維新後、無人となり荒廃が進んでいたが、昭和13年(1938年)に西小学校の校庭脇に移転され青少年の練成道場となり。昭和14年(1939年)「振励館」と命名される。太平洋戦争後、土地は能満寺の所有となり、最終的には建物も寺所有となって、最後は碁会所などに用いられていた。



芦田川文庫9「城下町 福山」より



福山城博物館「友の会だより」
No.15より

福山藩と松平三河守綱国

「飯山記」のいわれは、飯山(飯山市)の城下に居を構えた1住人が数回、高田(上越市)に赴き、越後騒動(新潟県)について聞き及んだことを書き留め、住む所にちなんで「飯山記」として記したことからくる。それでは、越後騒動とは何か。越後高田藩松平光長家において延宝7年(1679)から天和元年(1681)まで続いた御家騒動をいう。光長は、尾張・紀伊・水戸の御三家に次ぐ徳川一門の出身で、高田で知行26万石を領した。寛永元年(1624)～天和元年まで高田藩主であった。当時、地元にあつて藩政を担当していたのが、家老小栗美作(みまさか)・荻田主馬(しゅめ)であり、与力と知行を持つ岡島壱岐・片山主水・本多監物ら七大将であった。延宝2年(1674)光長の子綱賢は早死にし、その後は光長の異母弟氷見(ひみ)長頼の子万徳丸(改名して綱国)が養子となった。この後継をめぐる小栗美作派(美作派)と荻田主馬らの反美作派(主馬方)との対立が激化し、あわや武力闘争の様相を呈したが、ひとまず回避された。しかし、両派はことごとく対立を深め、争いは激化する一方であった。藩士のなかには、藩の前途を憂い自殺・脱藩・遁世するもの多数にのぼり、その数250人余とも350人余ともいわれた。この争いは、幕府も知ることとなり、延宝7年(1679)正月から同9年までの3回に渡る幕府裁定となった。5代将軍綱吉の親裁は、藩主松平光長の伊予松山藩(愛媛県)松平家御預け、同綱国の備後福山藩(岡山県)水野家御預け等となった。藩内では、美作派の小栗美作父子の切腹、安藤治左衛門の伊豆大島遠島など、反美作派(主馬方)の氷見大蔵・荻田主馬の八丈島遠島、岡島壱岐・本多七左衛門の三宅島遠島、片山外記の豊後臼杵藩(大分県)稲葉家御預けなどとなった。切腹2人・遠島8人・他家預け12人・追放10人となった。幕府関係者では、大老酒井忠清子弟の逼塞など11人の処罰となった。越後松平高田藩は以後4年5ヶ月は幕府の勤番支配となり、貞享2年(1685)以降稲葉家などが領知した。なお、元禄11年(1698)光長の養子宣富(長矩)は美作国津山(岡山県)で10万石の大名(津山松平家)として復興された(国史大辞典編集委員会／編「国史大辞典2」吉川弘文館発行など参照)「飯山記 上」は、二派に分かれての藩内抗争に、幕府老中列座で「寄り合い談合申す間敷」ことなど二派の争いを沈静化しようとしたが収まらず、結局氷見大蔵など反美作方の主な7人は雑説を流布し、家中を惑わした罪により他家御預け等になった過程を記す。

長野県公式サイトより

『福山領分語伝記』

・三河町

一、東町御家人屋敷之中ニ弘宗寺前之筋を已前より三河町と唱来り候者水野様御代、松平三河守様御預り之節、三河守様御住居有之候所と申す事ニ而、三河町と唱来り候由申伝候。東町、津留番所を三河口と唱候事も御着船之砌、此口より御入被成候訳を以、唱来り候由也。

龍淵寺

瑞雲山

開山 玄惠和尚

客殿(記入缺ぐ)

客殿の額

圓照無方

黃壁高泉筆(行書)

門額

龍淵寺

應求谷禪師之需雲山下之偏易書

當寺開基以來、檀家も少く繁榮する事もなき閑孤なる寺なり。松平忠雅公の御代には當寺をかりて東林寺といへる隨逐の寺を置れ、修覆をも被加けれども、勢州桑名へ所替以後大破に及ける所に、第六世雲涯和尚、自耕自耘て約を守り儉を専らにせられけるゆへ、常産乏しからず、僕貳人、童壹人を召使ひ、朝四暮三のうれいなく住せられけるか、元文四年七月廿六日の夜、盜賊押込、和尚並僕壹人、童壹人を殺害す。自是住僧もなく監守持になりて修理を加る事もあらざれば、まことの廢寺となり侍る。

越前一伯公の家臣酒井山城墓有。

前城州法雲院殿機山宗關大居士、寛永十九年に卒。飛彈國の人なり。水野家へ御預人となりて籠居の徒然なる儘、手習を常にせられけるか、筆の毛、輒なりとて、墨をこく摺て筆に轉し、混向火に烘て筆擧を劔のこたくにし、咽に押込自殺せられけるとぞ。寅之刻計に常福寺、洞林寺、泉龍寺、龍淵寺へ何者共しれす來りて、城州以今卒し玉へりと急に告げれば、各彼籠屋敷へ一度に來り云々の事を申來れり。仍、各參侍ると被申ければ、番之者共、且而(曾而)不知。寢所に行て見れば筆にて自害せられけるとかや。石塔の銘、湮滅してみへす。御旗本酒井權兵衛といへる人、江府番町に有之、今以音信有之。

藩翰譜第一

酒井

山城守源重隆は雅樂頭忠世が子、實は金森出雲守可重が子也童の時より左大臣家に仕へ奉り、堀田加賀守正盛と一雙の寵臣にて、官も職も互に上たらず下たらず、凡を賞祿賜ふも正盛給ふ日は重隆同く給ひ、重隆が給ふ時は正盛給はらずと云ふ事をし、正盛祿三万石に至りし時、重隆も同き日に三万を賜ふ、いつくを領せし如何なる故にや重隆身の煩ある由を申て、籠り居て年を経し後忽に罪かうふりて備後の國に流され、水野日向守勝成に預けらる。

世に傳ふるは重隆籠居せし中に、かの妻男子二人を設け、妾の子また二人を生みぬ、これを聞く人、重隆が病と稱すること詐れるをり、身奉公の勞に堪へずして如何にかく多くの子まうくべき、彼が病たゞ酒と色とに在りけんぞ云ひし程に、御不審かうふりしと云ふ也。

その後加賀守正盛が次第に歴上りて、四位の侍從して佐倉の城を賜ひしことを聞きて、さしも彼の正盛とは重隆一雙の者がりけり、云甲斐なき命をがらへんこと、耻ぢがましとて、食を斷ちて死しけるとぞ聞えし、其後その二男權兵衛重照を御家人に召出さる。嫡子を以右衛門八といひけるにや

山城守重隆 恩榮殿御前には重澄に作る番圖等も亦然り致し、忠世、金森可重、酒井本可重に作るは誤左大臣江家將軍 堀田正盛、寛永三年三月一日同十二年三万石なる此重澄は恩榮殿に下給生實二万五千石和年月未考と記せりれば本文の如く同時にては無きにや 寛永十年五月十二日 重澄不敏の事ありて改易同十九年九月廿九日隠所にて自害と 龍淵寺に見ゆ 水野勝成、備後堀山城主、十九年七月正盛に賜はる 重照、早世し

 **備陽史探訪の会**

【事務局】

〒720-0824 広島県福山市多治米町5-19-8

TEL 084-953-6157

E-mail info@bingo-history.net

公式サイト

<http://bingo-history.net>